

私は、県内の民間企業に勤めながら、仙台で主に防災・減災活動をしている「認定特定非営利活動法人防災・減災サポートセンター」でも活動しています。このNPO法人では、今まで町内会や学校などを対象にして、地域内を我々と一緒に歩いて危険箇所を地図に書き込んでいく、「マイマップ」というものを作成するお手伝いをしてきましたが、今回は新たに「マイハザードマップづくり」のお手伝いをする取り組みをしています。マイマップが自分自身あるいは家族の避難路マップ的なものに対し、マイハザードマップは色々と公開されているハザードマップを自宅周辺に絞り込んで1枚のマップに各危険箇所を書き込んでいくものです。できあがれば、マイマップより少し広い範囲の自宅周辺に特化した自身のハザードマップとなります。マイハザードマップを作成し、再び街歩きをすることで、マイマップが更にバージョンアップすると考えていますし、このマイハザードマップを用いた街歩きで、どのような地形に危険（ハザード）が潜んでいるか理解できると思います。例えば、土砂災害が起きやすい地形を目で確認できると思います。このことは、自宅周辺のことだけではなく、外出先でも役に立つ知識と言えると思います。

今回、マイハザードマップづくりの講座のために、「'78宮城県沖地震の際の被害状況をマッピングする」という資料を準備していました。その際に気がついた点がありましたので、ご紹介したいと思います。右の図面は、「'78宮城県沖地震」の際の仙台市内のある場所の木造建築物被害の場所（図中の○印）を示したものです。薄灰色の部分に集中していることが分かります。実はこの薄灰色の部分は、砂地盤である「自然堤防」とよばれる地形の場所で、比較的しっかりした地盤と考えられている場所

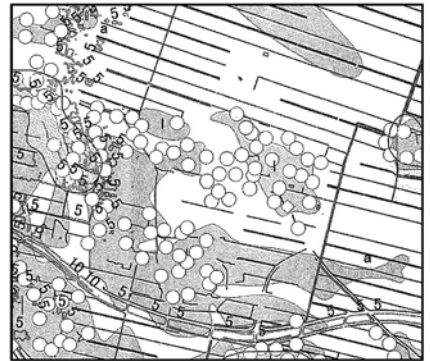
黒墨 秀行（応用理学部門、建設部門、総合技術監理部門）

す。一方、白い部分は、粘土やシルトが分布する沖積層の範囲で、一般的に「緩い、地震の際にはよく揺れる」と言われている場所です。しっかりと地盤と言われる場所で被害があって、緩いと言われる場所で被害がないように見えます。

一見、おかしいと思いかもしれませんが、これは自然堤防の場所に建築物が建てられ、沖積層の場所には建築物がなかったためです。建築物の有無の違いが現れた結果です。

また、「切土部分は大丈夫だけど、切盛境界は危ないし、盛土部分はよく揺れる」とか聞いたことがあるかもしれませんが。今回、切土や盛土での被害状況の資料も準備したところ、意外に切土部分でも被害があることが分かりました。この切土部分の被害は、地下埋設物の被害箇所であり、掘削してそこに管などを設置し、土を埋め戻している場所でした。いわゆる人工的な埋土の場所で、そこで被害が発生していたわけです。

このように、災害発生箇所や危険箇所をみる場合は、結果だけでなく、そこに潜んでいる理由（わけ）も理解しなくてははいけないということだと思います。マイハザードマップを作ってみるということは、地域の皆さんがこのような理由（わけ）をみる力も養われるのではないかと期待しています。



宮城県沖地震災害の記録（仙台市）
よの転記